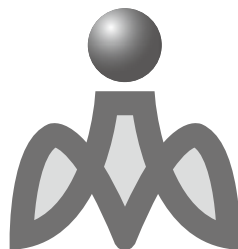


山 梨 県

商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔令和4年1月～3月実績〕
〔令和4年4月～6月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

I 調 査 要 領	1
II 景 況	
1. 産業全体の業況概観	2
2. 製造業の動向	
(1) 景 況 概 観	3
(2) 主な項目で見る業況	3
3. 建設業の動向	
(1) 景 況 概 観	6
(2) 主な項目で見る業況	6
4. 小売業の動向	
(1) 景 況 概 観	9
(2) 主な項目で見る業況	9
5. サービス業の動向	
(1) 景 況 概 観	12
(2) 主な項目で見る業況	12

【I】 調 査 要 領

1. 調 査 対 象

(1) 対象地区 19商工会 (2) 対象企業数 165企業 (3) 回答企業数 165企業

2. 調査対象期間

第4四半期 令和4年1月～3月期 「調査時点：令和4年3月1日」

3. 調 査 方 法

県内の調査対象企業を19商工会の経営指導員等が訪問面接調査

4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サービスマ業	計
都 留 市	3	2	3	4	12
山 梨 市	1	2	2	3	8
大 月 市	2	1	3	2	8
韮 崎 市	2	2	1	2	7
南アルプス市	3	2	4	6	15
北 杜 市	4	2	5	4	15
甲 斐 市	4	3	5	2	14
笛 吹 市	3	2	4	6	15
上 野 原 市	2	1	2	2	7
甲 州 市	3	1	2	3	9
中 央 市	2	1	2	1	6
市 川 三 郷 町	2	1	1	2	6
身 延 町	1	1	2	2	6
南 部 町	1	0	1	1	3
富 士 川 町	1	1	1	2	5
昭 和 町	1	1	3	3	8
西 桂 町	0	0	1	1	2
南 都 留 中 部	1	1	2	2	6
河 口 湖	1	1	6	5	13
計	37	25	50	53	165

5. そ の 他

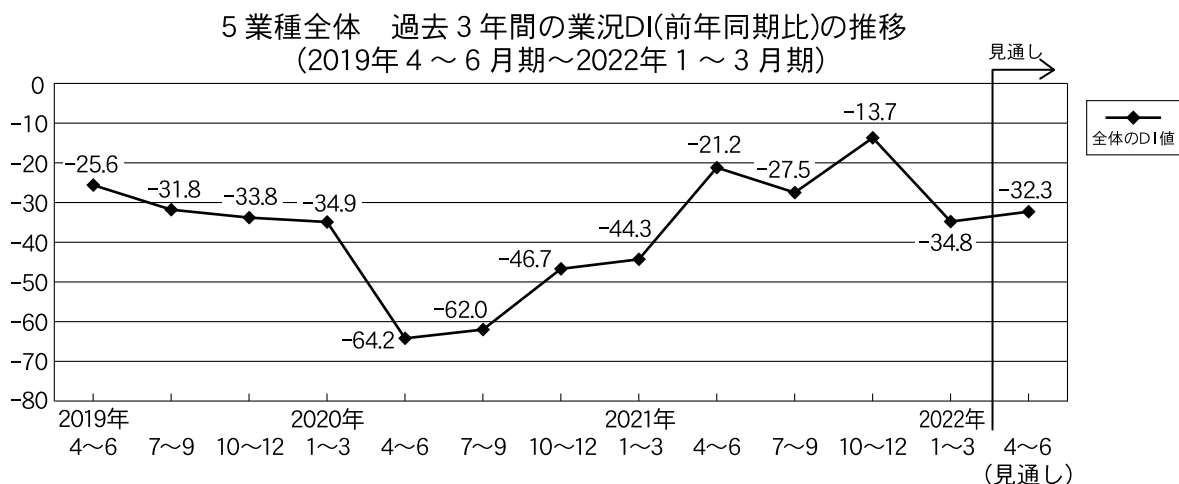
本報告書のDIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の業況概観

本県における5業種全体の業況判断DI、及び、産業別の業況判断DIについてみる。

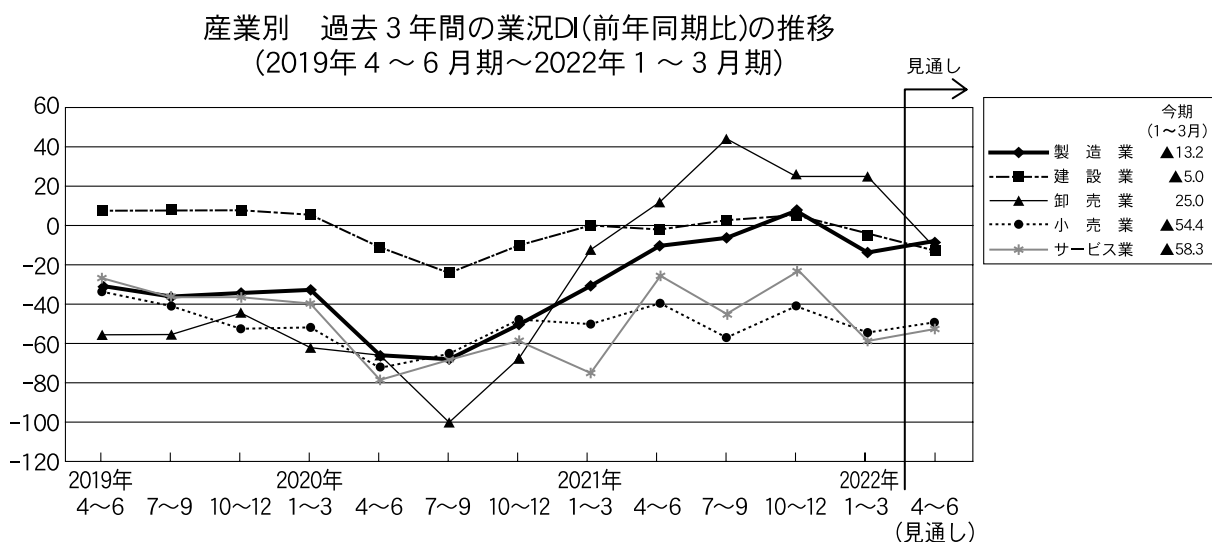
まず、前年同期比でみた過去3年間の5業種全体の業況判断DIである。今期の業況判断DIは、▲34.8と前期比で21.1ポイントも悪化している。来期についても▲32.3と今期同様の見通しである。



次に、前年同期比でみた過去3年間の産業別の業況判断DIである。

前期と数字に変化のない卸売業+25.0以外の4業種は全て悪化している。製造業が▲13.2で前期比▲21.1ポイント、建設業が▲5.0で前期比▲10.1ポイント、小売業が▲54.4で前期比▲14.0ポイント、サービス業が▲58.3で▲35.1ポイントであった。

来期は、製造業、小売業、サービス業が改善の見通し、建設業、卸売業が悪化の見通しとなっている。



【注記】 上記、産業全体の業況概観については、商工会調査対象165企業に甲府・富士吉田地域等からの117企業を含めた282サンプルを使用。卸売業については、中小企業基盤整備機構調査によるデータのみを使用。次ページからの産業別景況DIについては、商工会地区企業のサンプル分析に基づくものである。

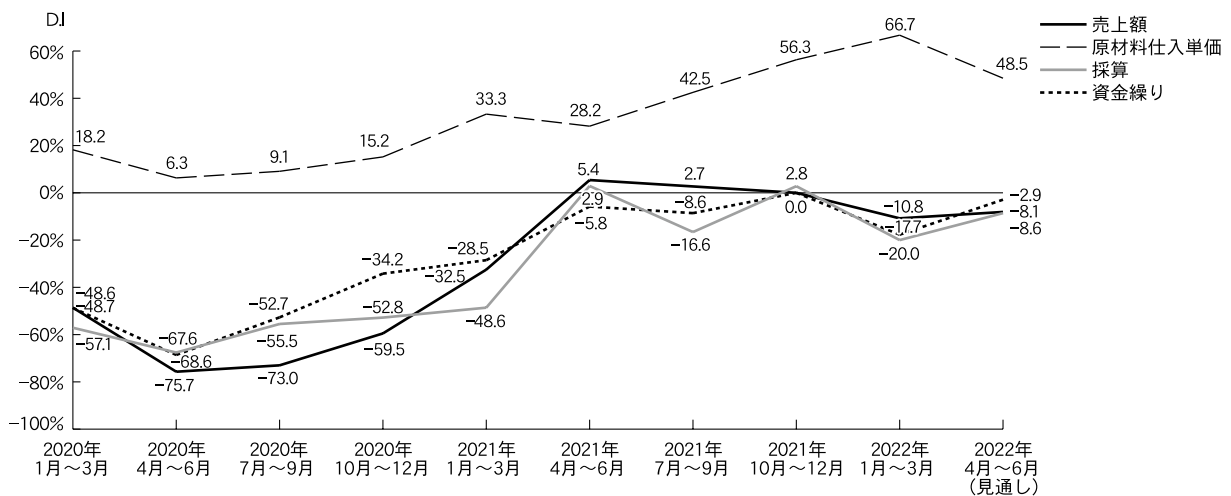
2. 製造業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期▲10.8と前期比で10.8ポイント悪化したが、来期は▲8.1へと僅かながら改善の見通しとなっている。原材料仕入単価D Iは、今期66.7と前期比で10.4ポイント上昇（悪化）し、来期は48.5へと下降（改善）の見通し。採算D Iも、今期▲20.0と前期比で22.8ポイントの悪化だが、来期は▲8.6に改善の見通し。資金繰りD Iも、今期▲17.7と前期比で17.7ポイントの悪化だが、来期は▲2.9に改善の見通しである。

今期は全てのD Iが悪化し、来期は全てのD Iが改善の見通しである。

山梨県 製造業 主要景況項目の推移－前年同期比－



(2) 主な項目でみる業況

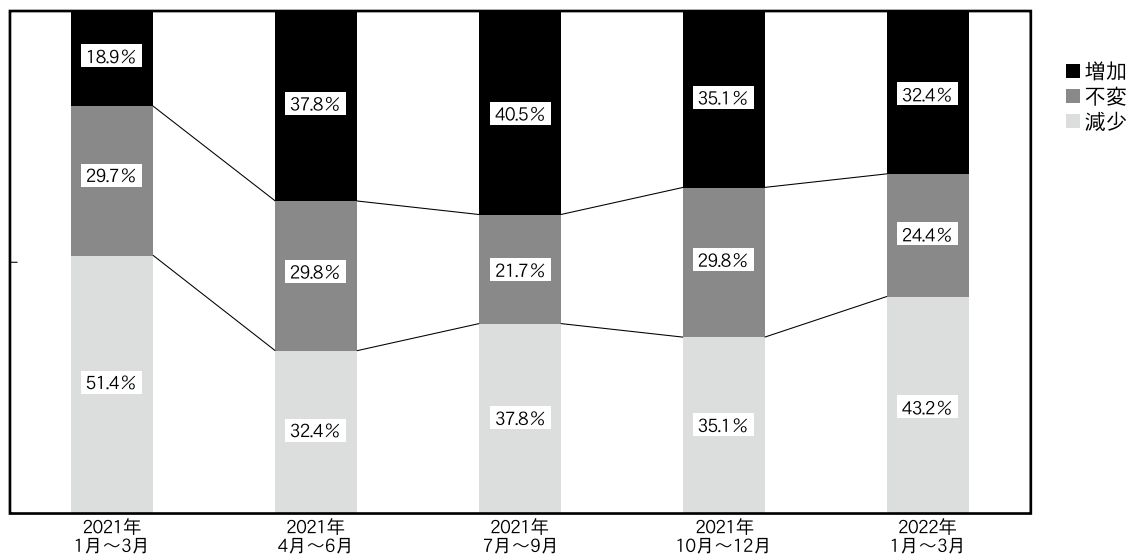
① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数37社））

「増加」と答えた企業の割合は、32.4%（12社）と減少（前期比▲1社）している。

「不変」は24.4%（9社）と減少（前期比▲2社）、

「減少」は43.2%（16社）と増加（前期比+3社）している。

山梨県 製造業 売上額の状況－前年同期比－



② 採算（採算D Iの内容（回答企業数35社（前回36社））

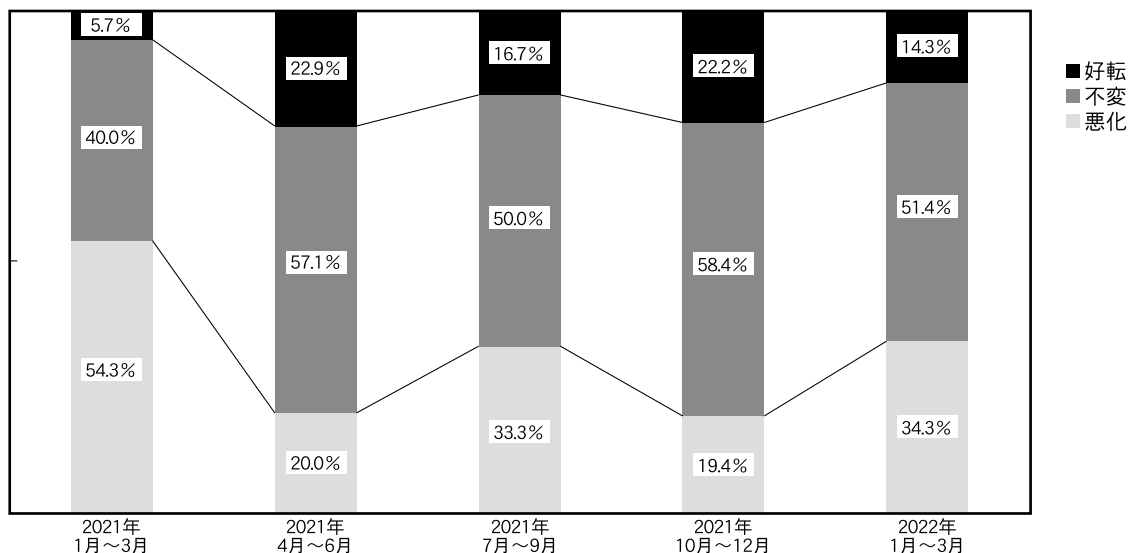
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、14.3%（5社）と減少（前期比▲3社）している。

「不変」は51.4%（18社）と減少（前期比▲3社）、

「悪化」は34.3%（12社）と増加（前期比+5社）している。

山梨県 製造業 採算の状況－前年同期比－

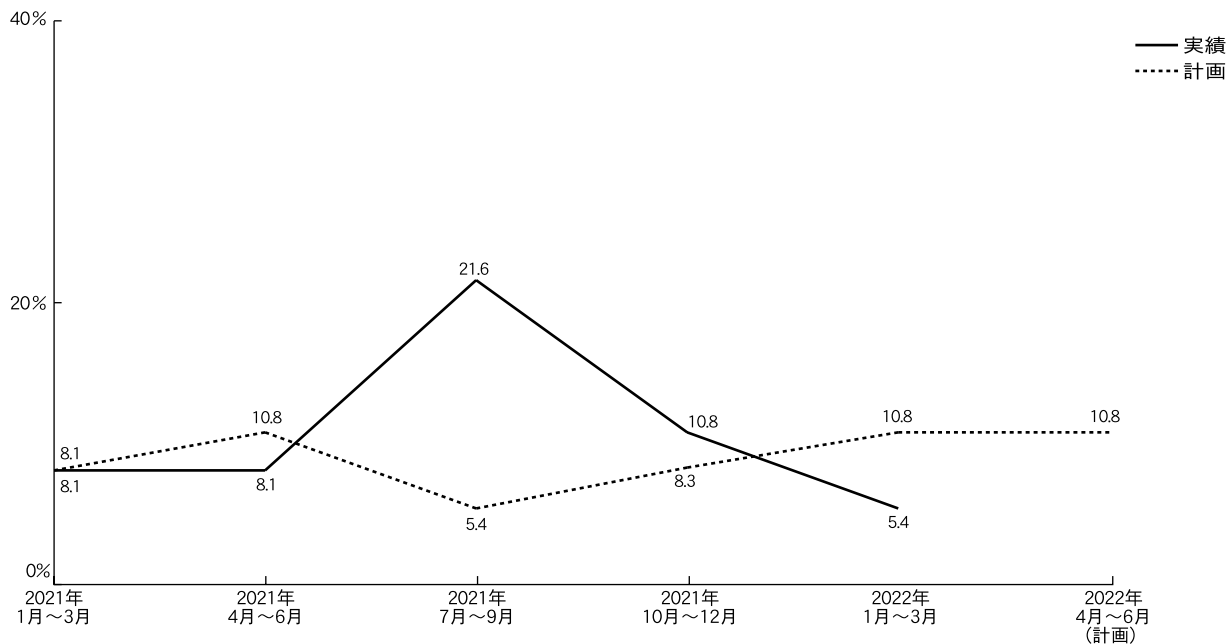


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数37社）

今期において、設備投資を行った企業の割合は5.4%（2社）であった。その設備投資の内容は、「付帯施設」であった。

来期の計画については、10.8%（4社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「生産設備」「車両・運搬具」が2件ずつ、「OA機器」が1件である。

山梨県 製造業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数32社）

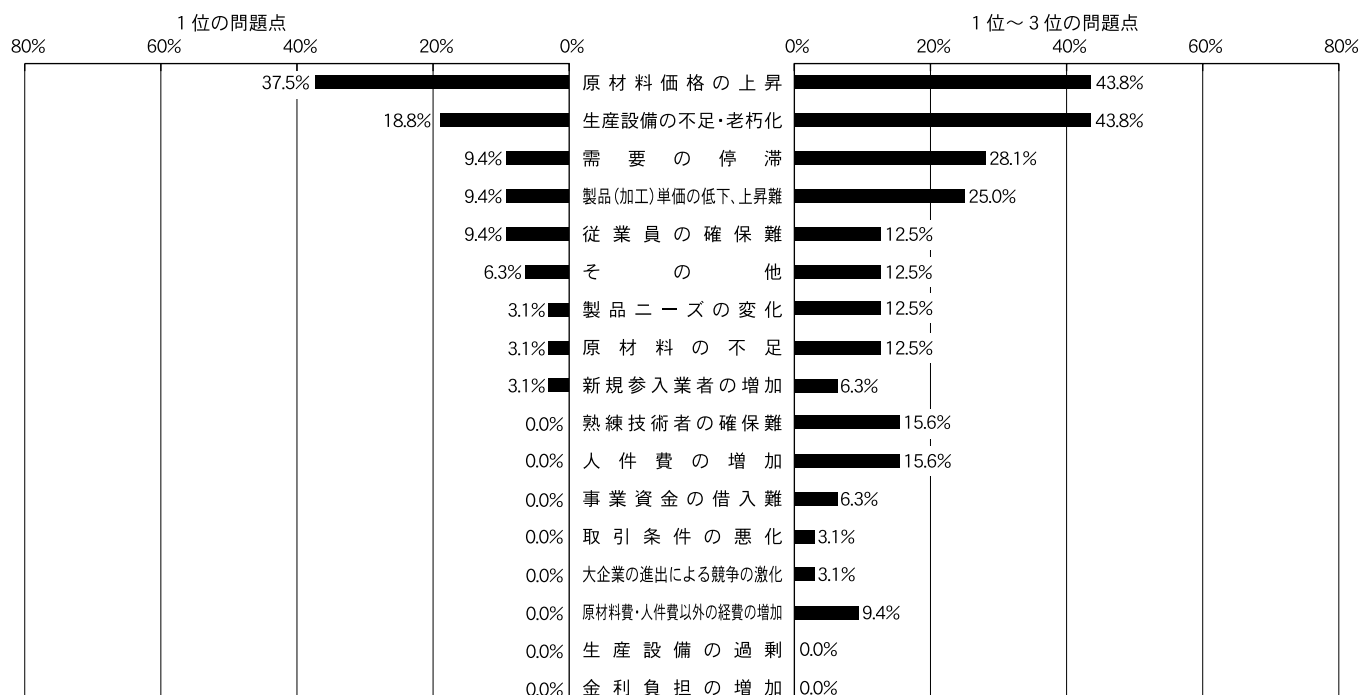
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「原材料価格の上昇」の37.5%（12社）であり、2番目は「生産設備の不足・老朽化」の18.8%（6社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「原材料価格の上昇」「生産設備の不足・老朽化」が同率の43.8%（14社）であった。

山梨県 製造業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	4	10.8
飲料・飼料・たばこ製造業	1	2.7
衣服・その他繊維製品製造業	0	0.0
印刷・同関連業	3	8.1
化学工業	1	2.7
プラスチック製品製造業	4	10.8
金属製品製造業	3	8.1
一般機械器具製造業	13	35.2
電気機械器具製造業	4	10.8
精密機械器具製造業	1	2.7
その他製造業	3	8.1
合計	37	100.0

従業員規模別

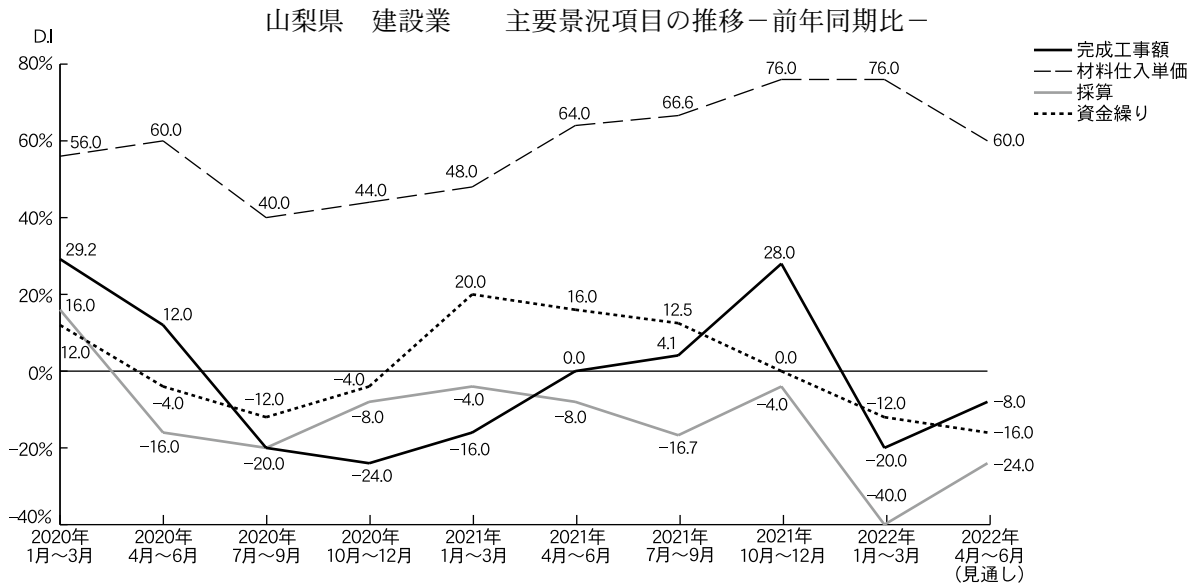
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(社)	構成比(%)	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	17	46.0	15	40.6
3人～5人以下	9	24.3	7	18.9
6人～10人以下	7	18.9	10	27.0
11人～20人以下	4	10.8	5	13.5
合計	37	100.0	37	100.0

3. 建設業の動向

(1) 景況概観

完成工事額D Iは、今期▲20.0と前期比で48.0ポイントの大幅悪化であったが、来期は▲8.0に改善の見通しである。材料仕入単価D Iは、今期76.0と前期同ポイントで、来期は60.0に下降（改善）の見通しである。採算D Iは、今期▲40.0と前期比36.0ポイントの悪化、来期は▲24.0へと改善の見通し。資金繰りD Iは、今期▲12.0と前期比12.0ポイント悪化し5期ぶりで0.0を下回った。来期は▲16.0へとさらに悪化の見通しである。

今期は、前期と変化の無かった材料仕入単価D Iを除きすべてのD Iが悪化。来期は資金繰りD Iのみが悪化の見通しで、他全てのD Iは改善の見通しである。



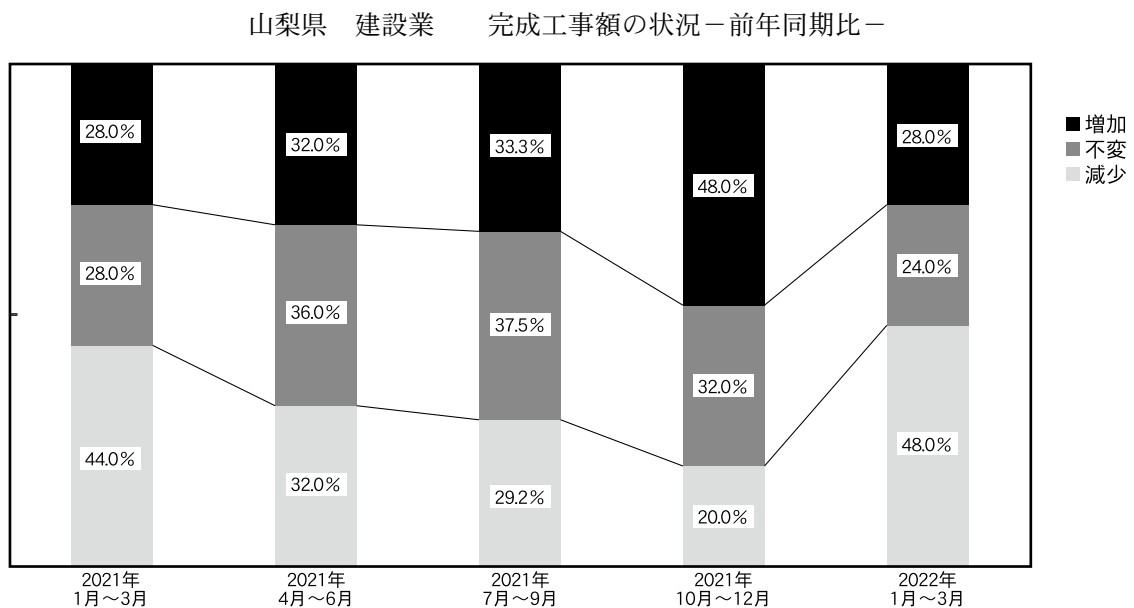
(2) 主な項目で見る業況

① 完成工事額（完成工事額D Iの内容（回答企業数25社））

「増加」と答えた企業の割合は、28.0%（7社）と減少（前期比▲5社）している。

「不変」は24.0%（6社）と減少（前期比▲2社）、

「減少」は48.0%（12社）と増加（前期比+7社）している。



② 採算（採算D I の内容（回答企業数25社））

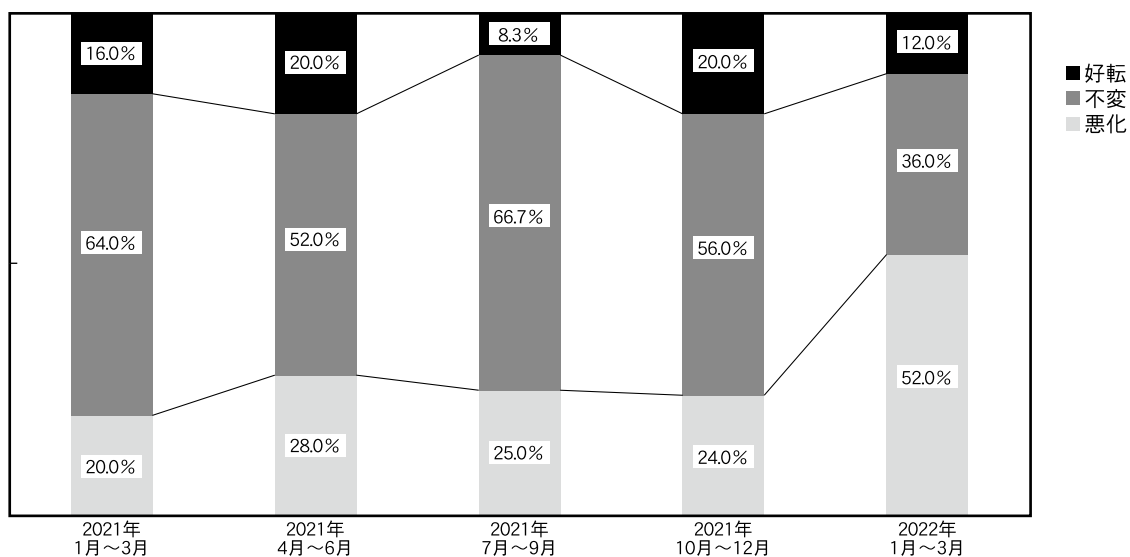
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、12.0%（3社）と減少（前期比▲2社）している。

「不変」は36.0%（9社）と減少（前期比▲5社）、

「悪化」は52.0%（13社）と増加（前期比7社）している。

山梨県 建設業 採算の状況－前年同期比－

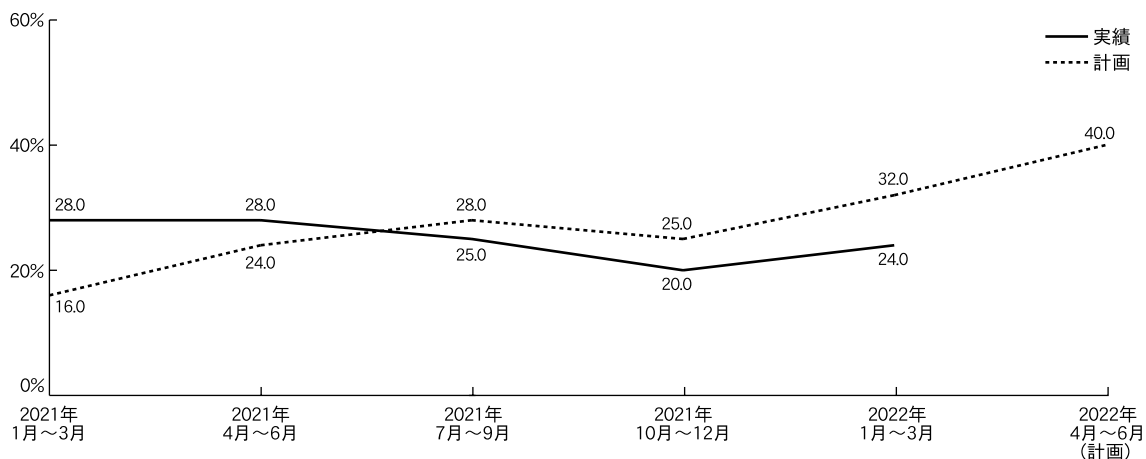


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数25社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は24.0%（6社）であった。その設備投資の内容は、「建設機械」「車両・運搬具」が3件ずつ、「土地」「OA機器」が1件ずつであった。

来期の計画については、40.0%（10社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「建設機械」が4件、「車両・運搬具」「その他」が3件ずつ、「OA機器」が2件、「建物」「福利厚生施設」が1件ずつになる。

山梨県 建設業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数25社）

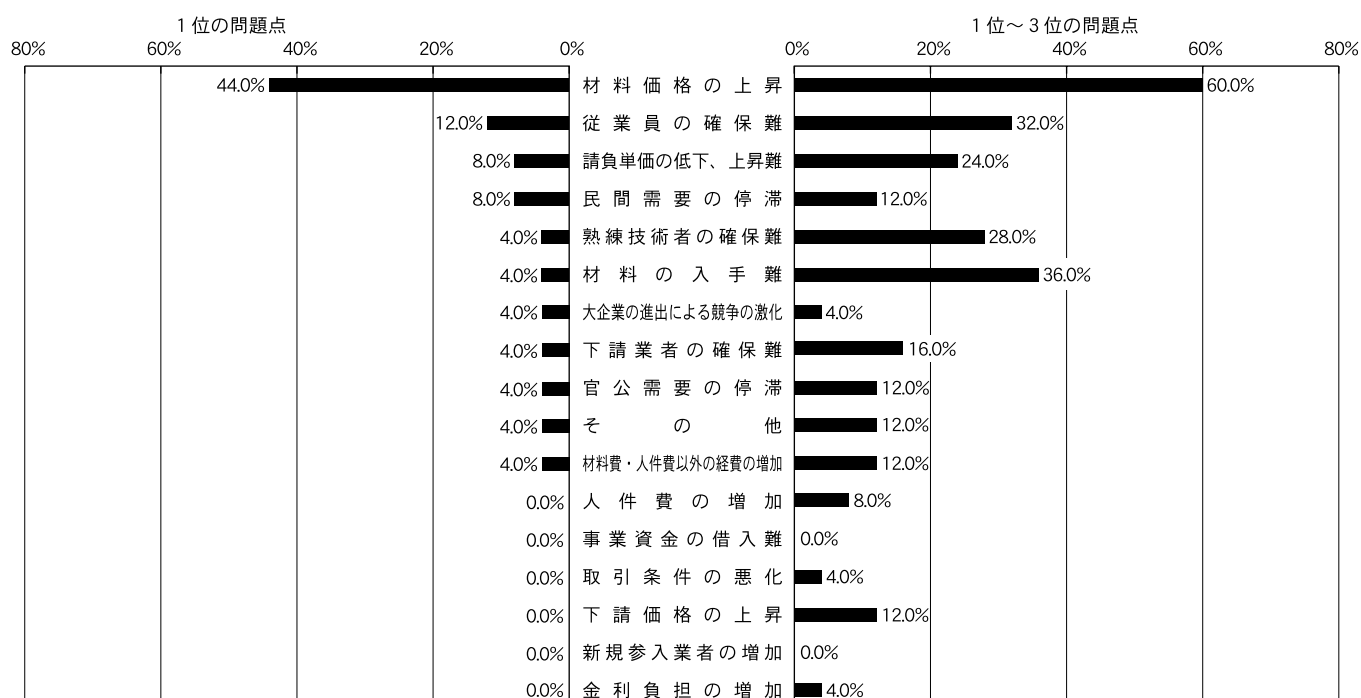
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「材料価格の上昇」の44.0%（11社）であり、2番目は「従業員の確保難」の12.0%（3社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「材料価格の上昇」の60.0%（15社）であり、2番目に多かったのは「材料の入手難」の36.0%（9社）であった。

山梨県 建設業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
総合工事業	19	76.0
職別工事業	3	12.0
設備工事業	3	12.0
合計	25	100.0

従業員規模別

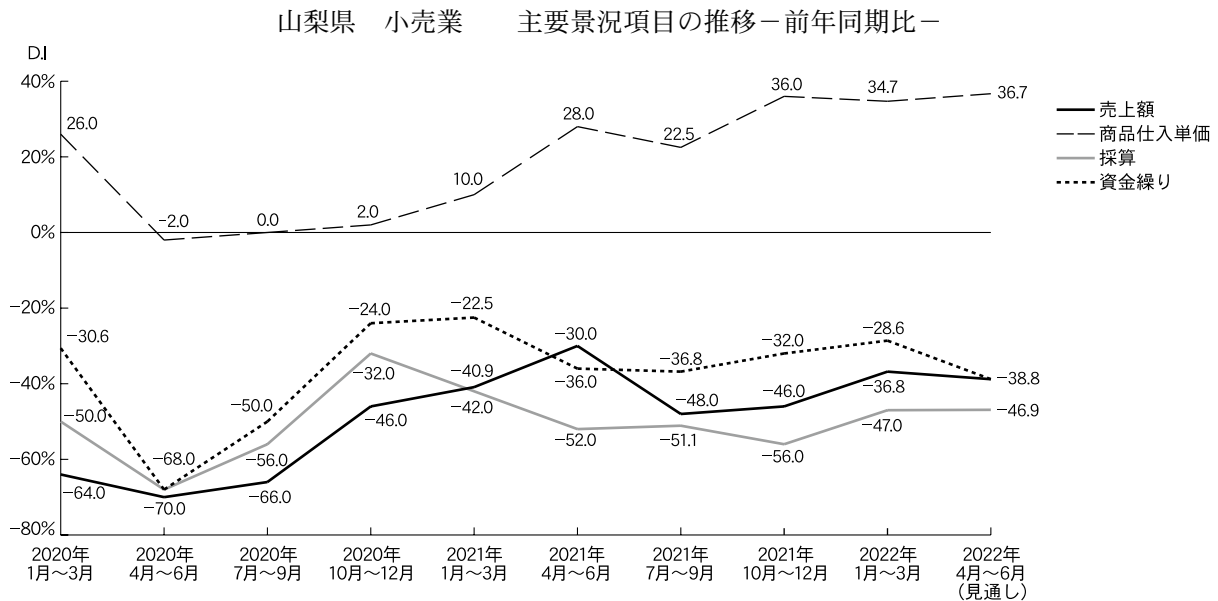
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い		企業数(社)	構成比(%)
2人以下	9	36.0	8	32.0
3人～5人以下	5	20.0	6	24.0
6人～10人以下	5	20.0	5	20.0
11人～20人以下	5	20.0	5	20.0
21人～50人以下	1	4.0	1	4.0
合計	25	100.0	25	100.0

4. 小売業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期▲36.8と前期比で9.2ポイント改善したが、来期は▲38.8へと僅かながら悪化する見通しである。商品仕入単価D Iは、今期34.7と前期比で1.3ポイントの下降（改善）、来期は36.7と僅かに上昇（悪化）の見通しである。採算D Iは、今期▲47.0と前期比で9.0ポイント改善し、来期もほぼ変化なく▲46.9の見通し。資金繰りD Iは、今期▲28.6と僅かながら前期比で3.4ポイント改善したが、来期は▲38.8と悪化の見通しである。

今期は、全てのD Iが改善している。来期は、ほぼ変化のない採算D Iを除き悪化の見通しである。



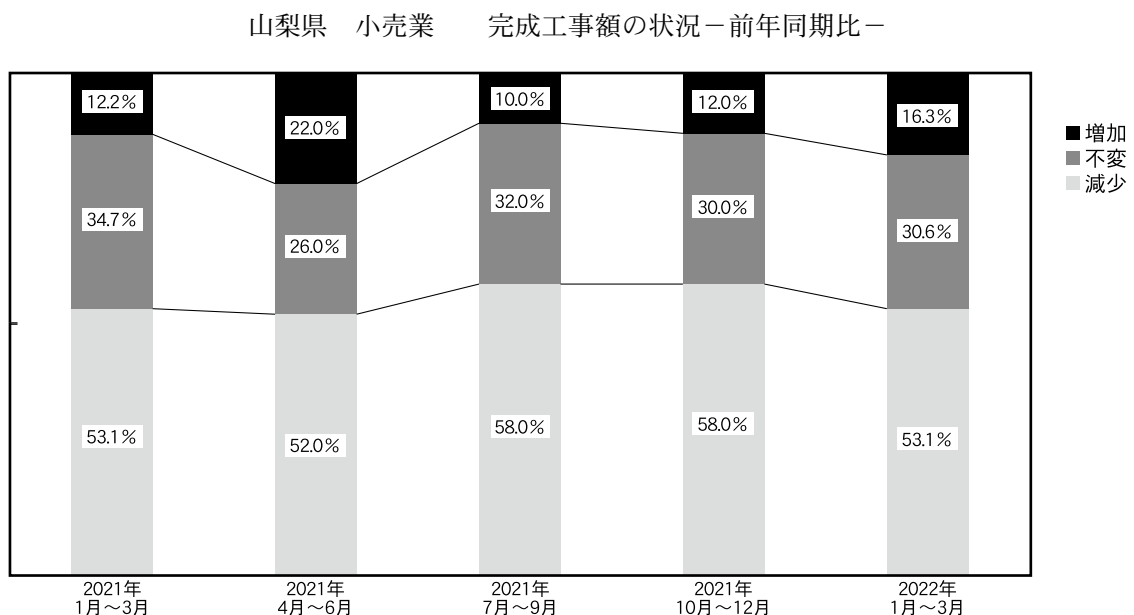
(2) 主な項目でみる業況

① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数49社（前回50社）））

「増加」と答えた企業の割合は、16.3%（8社）と増加（前期比+2社）している。

「不変」は30.6%（15社）と増加（前期と企業数の変動なし）、

「減少」は53.1%（26社）と減少（前期比▲3社）している。



② 採算（採算D I の内容（回答企業数49社（前回50社））

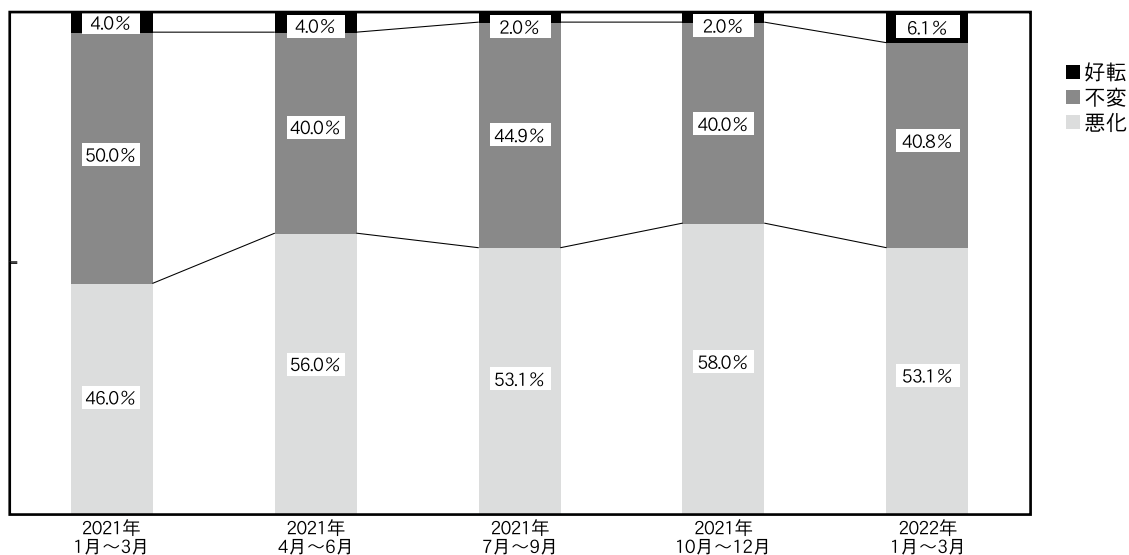
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、6.1%（3社）と増加（前期比+2社）している。

「不変」は40.8%（20社）と増加（前期と企業数の変動はなし）、

「悪化」は53.1%（26社）と減少（前期比▲3社）している。

山梨県 小売業 採算の状況－前年同期比－

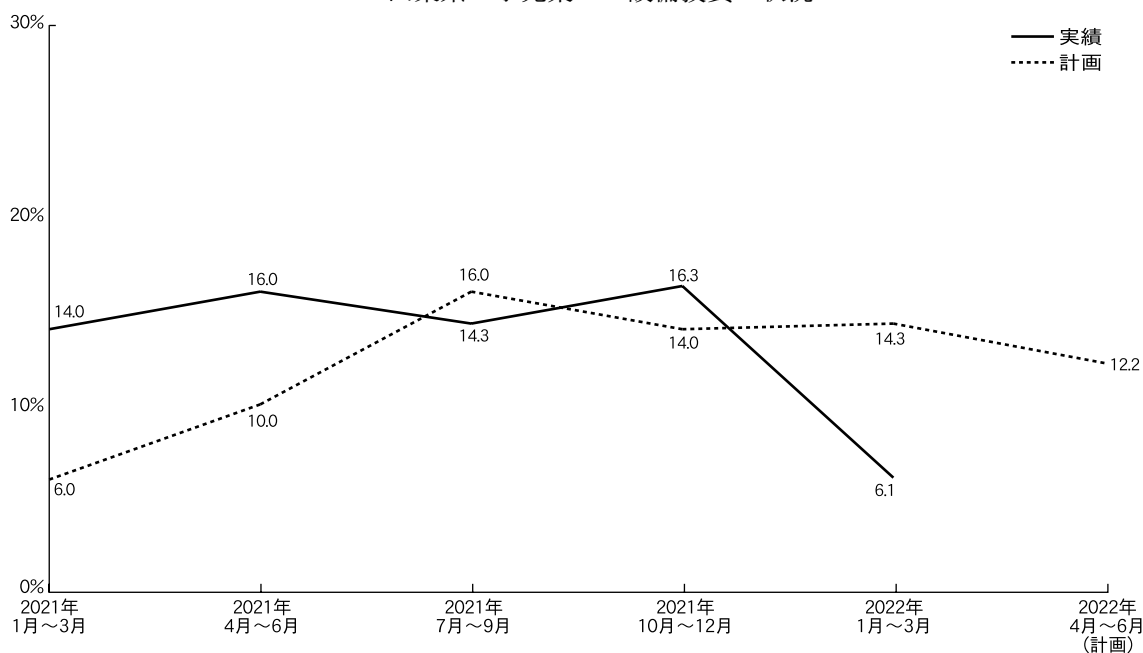


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数50社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は6.1%（3社）であった。その設備投資の内容は、「店舗」「OA機器」「その他」が1件ずつであった。

来期の計画については、12.2%（6社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「販売設備」が3件、「店舗」「OA機器」が2件ずつ、「車両・運搬具」「付帯施設」「その他」が1件ずつになる。

山梨県 小売業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数47社）

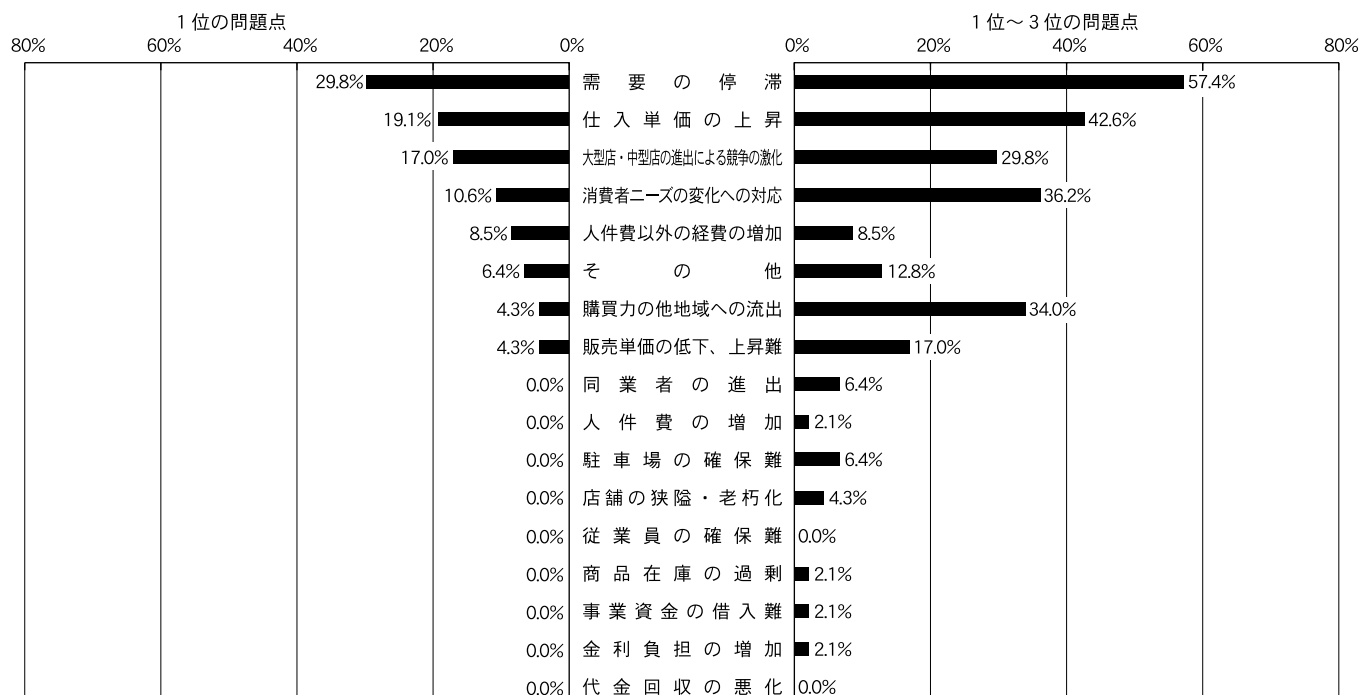
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは「需要の停滞」の29.8%（14社）であり、2番目は「仕入単価の上昇」の19.1%（9社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の57.4%（27社）であり、2番目は「仕入単価の上昇」の42.6%（20社）であった。

山梨県 小売業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
各種商品小売業	0	0.0
織物・衣服・身の回り品小売業	9	18.0
飲食物品小売業	18	36.0
自動車・自転車小売業	2	4.0
家具・建具・じゅう器小売業	4	8.0
その他小売業	17	34.0
合計	50	100.0

従業員規模別

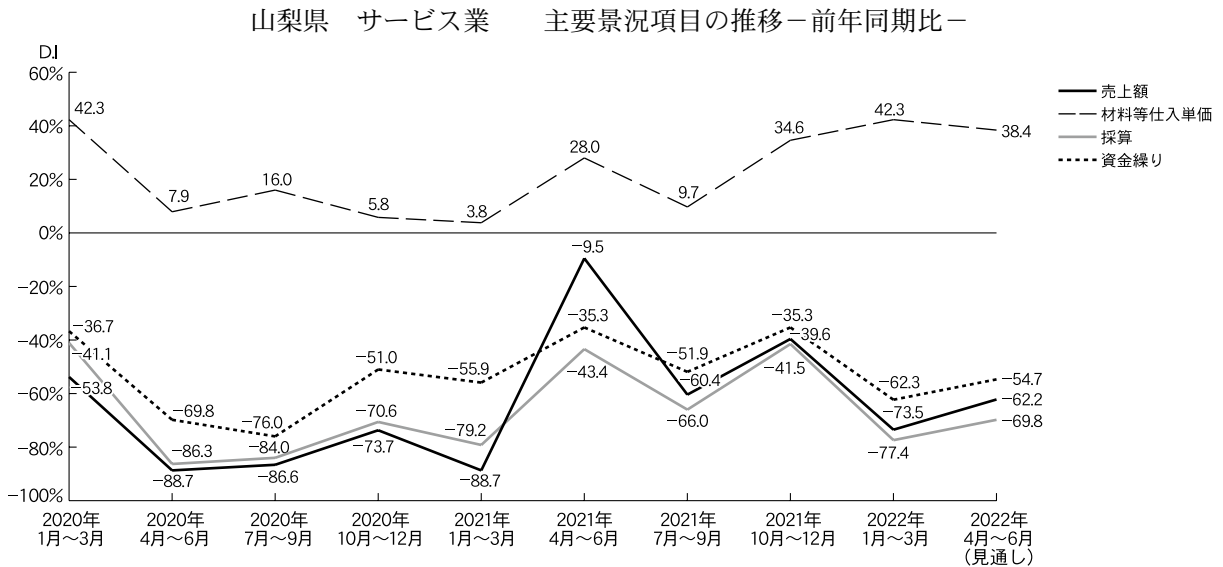
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(社)	構成比(%)	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	46	92.0	39	78.0
3人～5人以下	4	8.0	11	22.0
6人～10人以下	0	0.0	0	0.0
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	50	100.0	50	100.0

5. サービス業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期▲73.5と前期比で33.9ポイント悪化し、来期は▲62.2へと若干持ち直す見通しである。材料等仕入単価D Iは、今期42.3と前期比で7.7ポイント上昇（悪化）し、来期は38.4に若干下降（改善）の見通しである。採算D Iは、今期▲77.4と前期比で35.9ポイント大きく悪化し、来期も▲69.8と大きな改善は見られない見通しである。資金繰りD Iも、今期▲62.3と前期比で27.0ポイント悪化し、来期も▲54.7と若干程度の改善にとどまる見通しである。

今期は全てのD Iが悪化した。来期は全てのD Iが改善の見通しであるが、今期の悪化に比してその幅は小さい。



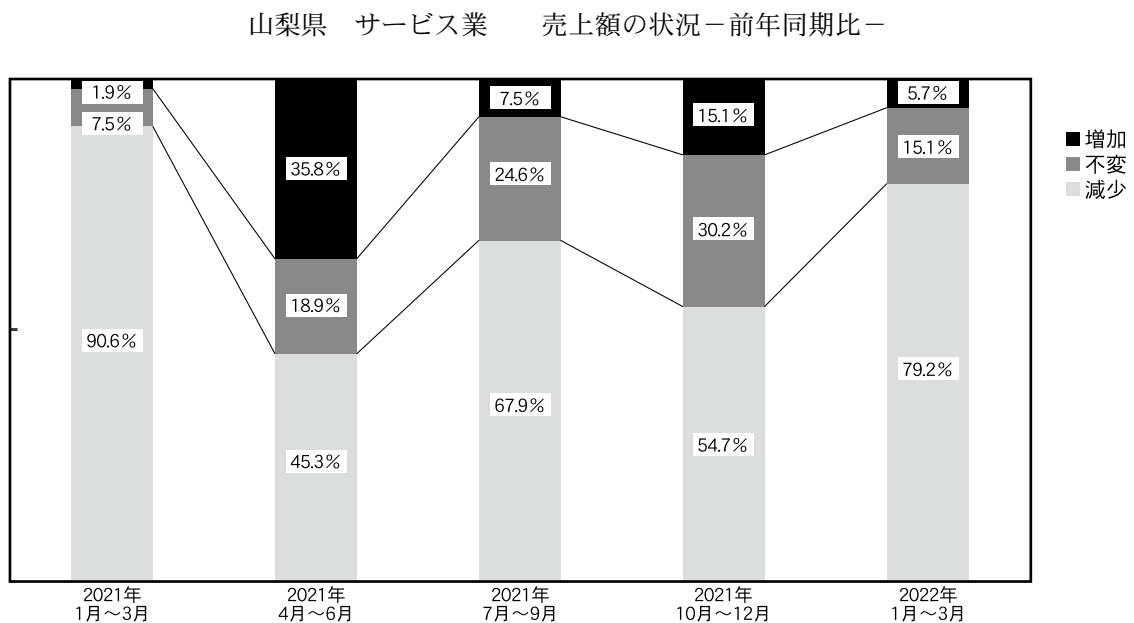
(2) 主な項目でみる業況

① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数53社））

「増加」と答えた企業の割合は、5.7%（3社）と減少（前期比▲5社）している。

「不変」は15.1%（8社）と減少（前期比▲8社）、

「減少」は79.2%（42社）と大きく増加（前期比+13社）している。



② 採算（採算D I の内容（回答企業数53社））

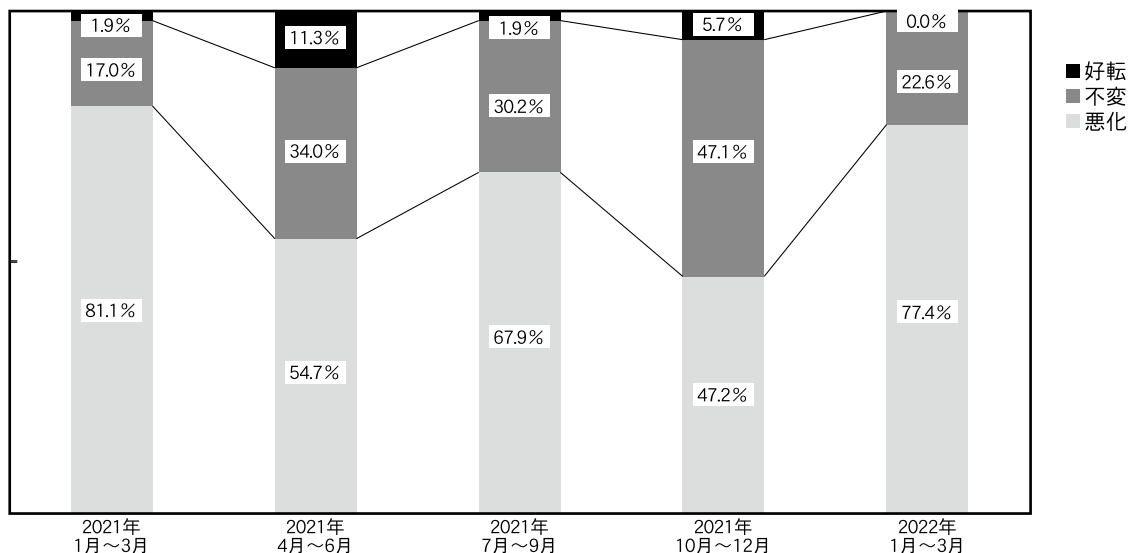
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業は0社に減少（前期比▲3社）している。

「不変」と答えた企業の割合は22.6%（12社）と減少（前期比▲13社）、

「悪化」は77.4%（41社）と増加（前期比+16社）している。

山梨県 サービス業 採算の状況－前年同期比－

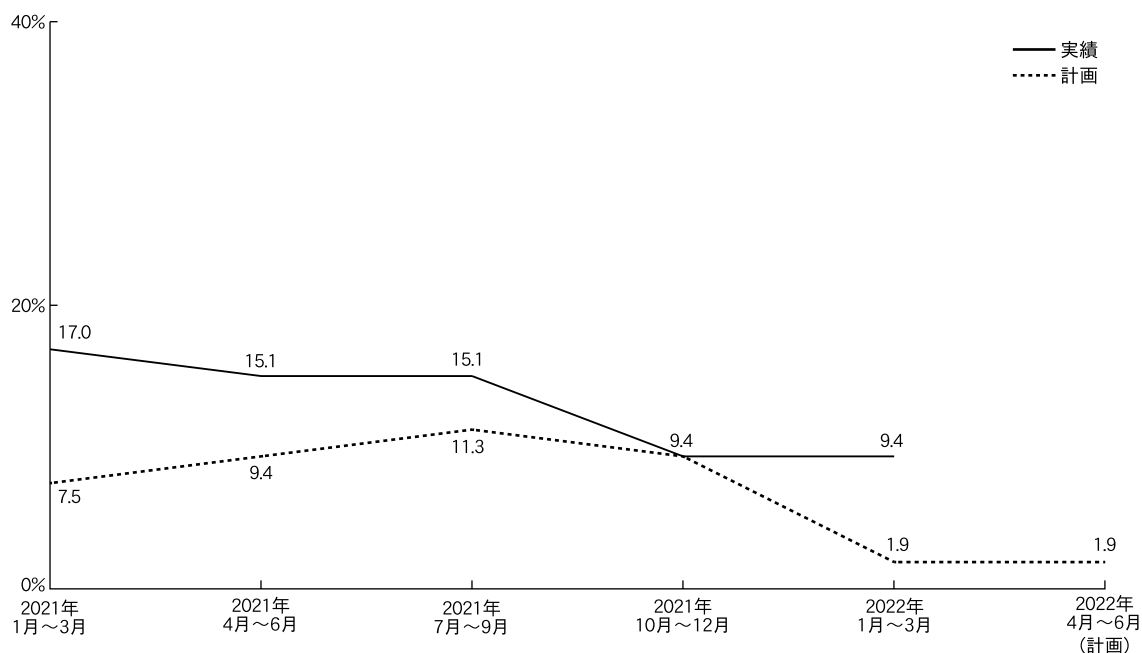


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数53社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は9.4%（5社）であった。その設備投資の内容は、「サービス」「付帯施設」が2件ずつ、「車両・運搬具」が1件であった。

来期の計画については、1.9%（1社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「車両・運搬具」が1件になる。

山梨県 サービス業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数48社）

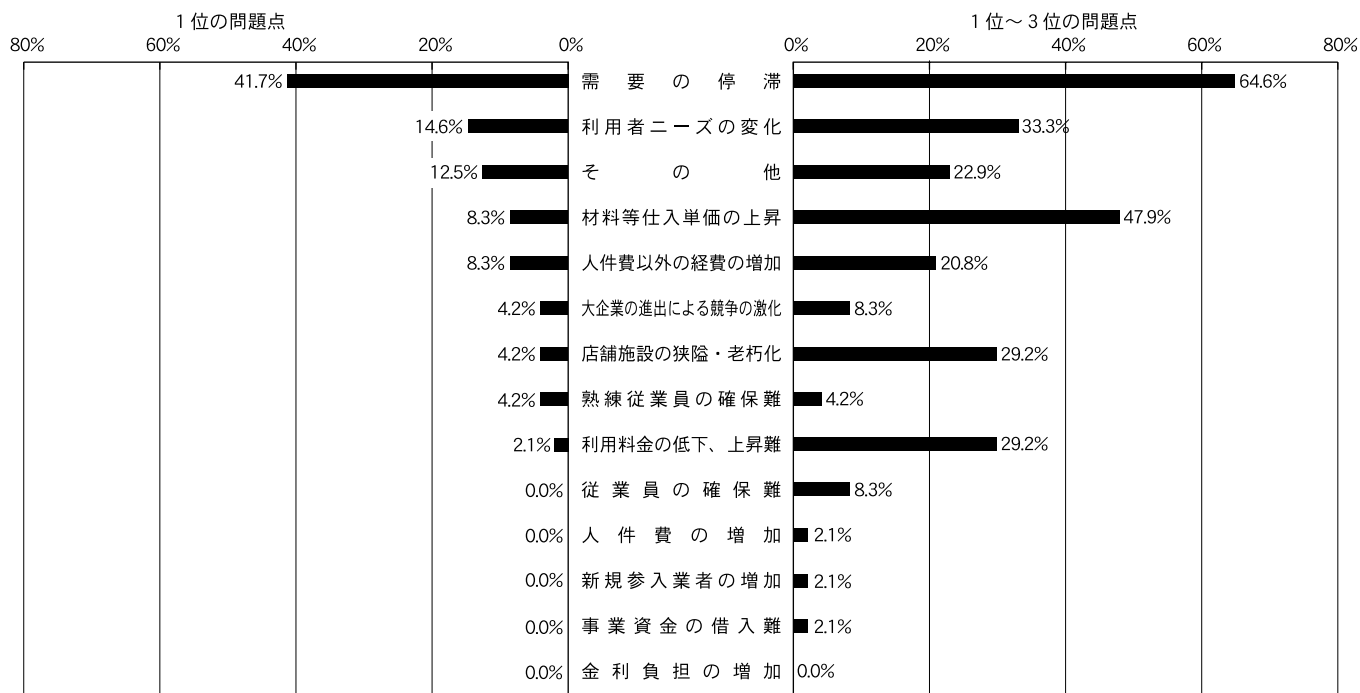
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の41.7%（20社）であり、2番目は「利用者ニーズの変化」の14.6%（7社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の64.6%（31社）であり、2番目に多かったのは「材料等仕入単価の上昇」の47.9%（23社）であった。

山梨県 サービス業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
一般飲食店（一般・遊興）	20	37.7
宿泊業	7	13.2
運送業	1	1.9
自動車整備業	4	7.5
洗濯・理美容業	18	34.0
その他のサービス業	3	5.7
合計	53	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(社)	構成比(%)	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	46	86.8	40	75.5
3人～5人以下	7	13.2	12	22.6
6人～10人以下	0	0.0	1	1.9
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	53	100.0	53	100.0